

令和4年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷高等学校 定時制)

目指す学校像 自ら考え、判断し、目標に向かい着実に努力するとともに、他者への思いやりの心を持った心豊かな生徒を育てる学校

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 わかる授業に徹し、基礎学力の充実を図る。 2 生徒理解を深め、学校生活への適応指導を充実する。 3 積極的な情報発信、外部機関との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。 4 安全・安心な学校づくりに努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者	4名
生徒	3名
事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標				年度評価(1月26日現在)		実施日 令和5年1月27日(対面)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 生徒一人一人の学習到達度を把握した指導計画の作成に取り組んでいる。 【課題】 「学びの基礎診断」を積極的に活用した学びのサイクル構築及びICTの機器利用やアクティブ・ラーニングの手法を活用した授業の実践	○生徒の学習意欲の向上及び基礎学力の定着	①学びの基礎診断のまとめテストの実施(学期2回) ②教員相互の授業見学、授業改善 ③進路面談の実施(年2回)及び進路資料室の整備・有効活用	①「学びの基礎診断」における学習達成率(年間の平均点70点以上生徒の割合)の増加 ②生徒の授業満足度(約90%)及び学習意欲(76%)の維持 ③進路達成率(75%)の維持	① 学習達成率は下記のとおり改善している。 国語 数学 英語 令和3年度 82.4% 23.5% 23.5% 令和4年度 85.7% 42.9% 42.9% ②生徒対象の授業に関するアンケートの各質問に対し「そう思う、まあそう思う」と回答した生徒数は下記のとおりである。 Q1. 授業の内容や先生の話に興味関心が持てる。 27人/31人 Q2. 授業の内容や先生の話を理解できている。 27人/31人 Q3. 授業内容を理解できるように努力している。 29人/31人 Q4. 自ら進んで学習課題に取り組んでいる。 21人/31人 ③進路決定状況は、進学4、就職2、現在の仕事を継続1、未定1である。	A	【成果等】 ・「学びの基礎診断」における学習達成率は改善している。 ・生徒アンケートにおける「生徒の授業満足度」が、87%と高い水準を維持している。来年度は、この状況を更に高めていきたい。 ・進路達成率は87.5%であった。 【課題】 ・数学と英語の学習達成率が目標(70%)に到達するように、授業改善をする。 ・自ら進んで学習課題に取り組む生徒の割合が68%に減少した。 【改善策等】 ・学びの基礎診断を活用した個別指導の充実 ・観点別評価の丁寧なフィードバック ・学習サポーターの更なる活用 ・ICT機器の更なる活用
2	【現状】 外部機関(SC、巡回支援員)と連携するなど、きめ細かい指導に取り組んでいる。 【課題】 充実した学校生活の実現(学校行事、部活動の工夫、充実)	○学校行事や部活動を活性化(外部機関との連携)	①外部機関(SC、巡回支援員)と連携した生徒理解 ②総合的な探究の時間、生徒会活動、学校行事、部活動の活性化 ③面談指導の充実	①転退学者の減少及び遅刻者の減少 ②学校行事への出席率の増加及び部活動加入率の増加 ③面談指導の充実	①今年度、現時点で既に、転学者、退学者ともに昨年度を上回った。 ②学校行事への出席率が、81.4%(昨年比-2.8ポイント)と前年の水準を維持した。部活動加入率は、62%(昨年比-3ポイント)で前年度の水準を維持した。	B	【成果等】 ・1日当たりの遅刻・早退の人数平均が、遅刻(6.0 → 4.5)、早退(0.7 → 0.6)と、共に減少した。 【課題】 ・不登校、転学、退学者が増加した。 ・学校行事を欠席する生徒の割合がやや増加した。 【改善策等】 ・スクールカウンセラーと連携した生徒支援の充実 ・生徒が登校しなくなる学校づくりの推進(学校行事の工夫、メリハリある行事計画の作成等)
3	【現状】 ホームページの活用や学校説明会等の運営方法見直しにより、本校の魅力や定時制の特色を外部へ発信して本校への入学希望者数を維持できた。 【課題】 保護者や生徒との連絡を確実にするためのメール配信システム等の導入及び積極的な広報活動	○効果的な広報活動の実施(定時制の特色のアピール)及びメール配信システムの導入	①ホームページの充実 ②学校説明会の参加者の増加 ③学校行事や公開授業の広報活動の充実(保護者等の参加者の増加) ④メール配信システムの導入	①ホームページの更新回数増加 ②学校説明会の参加者数及び学検志願者数の増加 ③学校行事への保護者の参加率の増加 ④メール配信システムの導入及び登録割合	①今日のコンダテ(給食)、行事報告等、昨年度と比較して更新回数は増加した。 ②2月3日に実施する学校説明会の参加申込は現在4組である。また、12月15日現在の入学希望者は5名である。 ③彩の国教育週間、給食感謝祭に保護者が参加した。 ④くまてい安心メールを導入した。保護者の登録率は、40%である。	A	【成果等】 ・メール配信システムを導入して保護者への連絡が効率的に行えるようになった。 ・本校定時制の入学希望者は前年度の水準を維持した。 【課題】 ・くまてい安心メールの登録者数の増加 ・給食試食会や彩の国教育週間へ参加する保護者数の増加 【改善策等】 ・くまてい安心メールの登録支援 ・本校の果たす役割(学び直しできる場所)の積極的な発信
4	【現状】 施設・設備の安全維持に努めるとともに、自校給食実施校として衛生面での安全・安心の確保に努めている。 【課題】 登下校時の事故防止(自転車運転マナーの向上、交通安全指導の充実)	○施設・設備、給食点検の実施及び定期的な交通安全指導の実施	①巡回による日常的な設備点検の実施 ②給食点検、給食の確実な実施 ③自転車、自動二輪車、自動車利用者へのルール徹底	①HR教室や使用教室の安全点検の実施及び速やかな修繕 ②安全に配慮した給食の提供 ③登下校時の交通事故件数の減少	①巡回による日常的な設備点検、各学期の安全点検を実施した。また各学期に1回の通学点検と自転車等の点検を実施した。 ②給食関係の事故0を達成した。 ③令和5年度における登下校中の交通事故は0件であった。	A	【成果等】 ・日常的、定期的な点検によって安心して学べる学校づくりができた。 【課題】 ・自転車運転のマナー向上、ヘルメットの着用 【改善策等】 ・防災計画に則った防災訓練の充実 ・消毒作業の徹底、手洗いの推奨、コロナ感染症対策の継続実施 ・自転車ヘルメットの着用指導、運転マナーの向上指導

【意見・要望】 ・知識を得るための動画視聴等の通信教育だけではできない「学校」という学びの場を活かして、これからもより良い授業をお願いします。 【評価】 ・30年前から勤労青年の学びの場というよりも様々な事情を抱えた生徒が学ぶ場であったと思います。様々な生徒が安心して学べる場となっていると思います。
【意見・要望】 ・目指す学校像の変更について、是非「社会で『はたらく』生徒を育てる学校」として頑張ってほしい。 【評価】 ・生徒数は少ないながらも、教職員が一人ひとりの生徒へしっかりと指導していると思います。 ・少人数が本人にあっているし、規則正しい生活をする為に役にたっていると思う。
【意見・要望】 ・私は定時制高校で事務員をしていたので定時制のことは多少知っていますが、一般の人には定時制でどのような教育が行われているか知られていないのではないかと。より積極的なPRをしてください。 【評価】 ・学校HPはまだまだ改善の余地があると思います。熊谷高校の良いところをもっとPRしてほしい。
【意見・要望】 ・生徒が安心、安全に学校生活を送れることを大切にしてください。 ・コロナ禍での学校給食は心配ごとが多くて大変だと思います。楽しい給食が提供できるよう工夫してください。 ・通学途中に街灯が無く暗い道がある。事故が心配だ。 【評価】 交通事故が0件であったことが素晴らしい。引き続きご指導を